

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	グローバル教育と探究学習を推進し、思いやりや多様性を尊ぶ態度を育み、広く国際的な視野に立って社会の発展に貢献できる人間の育成を目指す。
(2) 現状と課題	素直でまじめな生徒が多く、多くの生徒が部活動に参加し練習に励んでいる。一方で、自分の将来を考え、実現に向けて主体的に行動するという点においては十分とは言えない。今年度は、国際バカロレアDP認定校として、これまで以上に総合的な探究の時間及び探究的な学習活動に力を入れている。その結果、自主的に探究活動を継続する生徒や、自らの将来設計を明確にし、実現に向けて主体的に行動する生徒が増えている。また、国際的視野に立ち社会に貢献したいと考えている生徒が多いことから、校外における教育活動を一層充実させていくことが必要である。
(3) 重点目標	1 学習指導の充実：授業第一主義及び探究型学習の推進 2 生徒指導及び健康・安全教育の充実：学校生活の基盤 3 進路指導の充実：生徒の主体的な進路選択と個に応じた進路指導の充実 4 グローバル教育の充実：探究活動や国際交流活動等を通し、国際的な視野の涵養、他者と関わる力、協働する力並びに多様性を重んじる心の育成
(4) 結果の公表	1 学校評議員には学校評価結果報告書を送付する。 2 学校ホームページにおいて公表する。

学校整理番号	5
学 校 名	青森県立青森南高等学校
全日制の課程	本校
自己評価実施日	令和8年2月3日(火)
学校関係者評価実施日	令和8年2月3日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
地域の多彩な有職者で構成されている学校評議員会を学校関係者評価委員会と位置づけている。 地元町会長 1名、有職者 2名 地元小学校PTA会長 1名 後援会代表 1名、保護者 2名

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導の充実：授業第一主義及び探究型学習の推進	①授業第一主義の徹底。 ②探究的、協働的な学習活動の実践。	①「わかる」授業を展開することで、生徒の主体性を育むとともに基礎学力の定着につなげることができた。 ②ICTを効果的に活用しながら、全教科・科目において探究的、協働的な学習活動の実践をすることで、主体的・対話的で深い学びの実現とともに、生徒のコミュニケーション力、批判的思考力、多様性を尊重する心、ICT活用能力を育むことにつながった。	A	・基礎学力の向上と生徒の主体性の育成に向けて、着実な授業実践が積み重ねられ、成果を上げていることが窺える。 ・ICTの活用については、情報スキルやリテラシーの向上が目的ではなく、それらを活用して何ができるようになるかが求められている。今年度の取り組みの成果をさらに精選し、探究型学習に生かしてほしい。	・文理融合型の教育課程を基に、3学科とも探究活動を柱に相乗効果を上げられるよう、全職員でカリキュラムマネジメントに取り組んでいく。 ・全校生徒が国際バカロレアの理念を踏まえて、探究的で協働的な学びに取り組むとともに、情報モラル教育と情報リテラシー教育をバランスよく実施していく。
2	生徒指導及び健康・安全教育の充実：学校生活の基盤	①朝の玄関指導の充実。 ②交通事故防止や非行防止を目的とした校外指導及び安全教室の実施。 ③ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事等の実施。 ④生徒支援の充実。	①朝の玄関指導には全教員の協力の下、挨拶指導の充実につなげることができた ②交通安全教室や薬物乱用防止教室、情報モラル教室では、目的・意義を考えさせたことで、規範意識の啓発につなげることができた。 ③ホームルーム活動ではいじめ防止に向けて、クラス目標を作成し生徒主体のいじめ防止活動を推進できた。また、文化祭ではキャッシュレス決済を導入するなど、各行事において生徒主体の取り組みを実現することができた。 ④生徒支援委員会を定期的に開催し、生徒の心身の疾病や健康問題等の把握に努めることができた。必要に応じてSCによる健康相談を開催し、個に応じた支援を行うことができた。	A	・問題行動やいじめをうまい指導が行われ、生徒は安心して学校生活を送ることができている。 ・生徒の意見を生かした活動を行うことで、生徒自身の意識の向上がうかがえる。 ・合理的配慮を要する生徒や個別の対応が必要な生徒及びそれを求める保護者も増えている。学校のできる範囲を明確にし、情報共有と支援を行ってほしい。	・各行事においては、生徒会を中心に生徒の主体性や探究心を一層生かし、実施内容の充実に向けて取り組んでいく。 ・組織として生徒の心身の健康課題に適時に対応するため、スクールカウンセラーなど専門家との連携を一層深めていく。 ・生徒のクマ被害対策やSNS上の不適切画像拡散の未然防止に向けて、専門機関と連携し取組を進めていく。
3	進路指導の充実：生徒の主体的な進路選択と個に応じた進路指導の充実	①進路意識の高揚を図る取組の実施 ②全教員体制での志望理由書と面接・小論文の早期個別指導 ③海外進学の可能性を広げる取組	①大学の授業を体験する「大学模擬講義」、オープンキャンパスツアー、卒業生による「大学紹介」など、生徒の進路意識を高める各種取組を実施することができた。 ②総合型選抜及び学校推薦型選抜に向けて、全教員による志望理由書、小論文、面接指導が定着してきており、成果を上げることができた。 ③海外大学進学セミナーを継続的に実施するとともに、海外大学との協定を締結し、生徒の進路選択肢を拡充した。これにより、海外進学を具体的に検討できる環境を整備することができた。	A	・生徒へのさまざまな形での働きかけが行われていることが進路意識の醸成に効果を上げていると思われる。 ・進路実現をめぐる新たな動きについて、保護者の理解が追いついていないことも考えられる。教員の負担を軽減しながら、効果的な情報発信を行ってほしい。	・少子化に伴い総合型・学校推薦型選抜が多様化し、複数回受験の大学も増えている。こうした状況に対応するため、現行スタッフで持続可能な指導体制のアップデートを進めていく。 ・国内外の大学進学に関する、生徒・保護者向けセミナーを実施し好評であったため、次年度も継続していく。
4	グローバル教育の充実：探究活動や国際交流活動等を通し、国際的な視野の涵養、他者と関わる力、協働する力並びに多様性を重んじる心の育成	①3年間を見据えた探究活動の推進 ②台湾の慈済大学附属高級中学との対面等による姉妹校交流を中心とした国際交流 ③国際バカロレアディプロマプログラムの実施と理解促進	①思考スキルの育成や国内外のフィールドワーク、成果発表会を計画的に実施することで、生徒の主体的な学びと課題解決能力の向上につながっている。 ②グローバル探究科1回生による海外フィールドワークを実施し、探究活動を基盤とした姉妹校との交流を通じて相互理解を促進した。また、海外大学生によるイングリッシュキャンプやオンラインによる国際交流、DXハイスクール海外研修、国際会議等への参加を通じて、生徒は国際的な視野を広げ、価値観の多様性を理解する力を高めた。 ③学校全体で国際バカロレアの教育理念を共有するとともに、IB科目担当者による授業公開や県内の小・中学生および保護者を対象としたIB教育説明会を開催し、国際的な教育プログラムへの理解・普及に結びついた。	A	・生徒の探究活動は、優れた成果を上げている。このことを県内の中学生をはじめその保護者や学校関係者、地域住民にも広く周知を図ってほしい。 ・グローバル探究科の教育内容については、一般に理解が難しい点もある。他科との違いや国際交流などがどのように生徒の学びにつながっているかなどを、わかりやすく伝える工夫を続けてほしい。	・今年度は海外フィールドワークを中心に台湾の姉妹校と相互訪問を行い、アカデミックな交流活動を行うことができたことから、次年度は一層充実した交流内容となるよう取組を加速していく。 ・グローバル探究科の学びについて、ホームページ上の資料を充実させるとともに、説明会を複数回開催する。 ・国際バカロレアについては、来年度の1回生の最終試験合格に向け、指導スタッフが協力して取り組んでいく。

(11) 総括	グローバル社会の発展に貢献できる人間の育成を目指す本校にとって、実社会との関わりを持ちながら課題解決に取り組む探究活動は大切な教育活動である。その中で、学年を越えたメンバーで自主的に探究活動（地域課題の解決）に取り組む生徒たちが現れるなど成果が出始めている。今後は、教科指導においても、自分自身で問いを立て、その答えを導き出す「探究心」を大切にしたい教育活動を行っていききたいと考えている。 また、コロナ禍を経て様々な体験の乏しい生徒たちが、学校行事等で「協働して物事に取り組む達成感とそれを共有する喜び」を感じることができる学校運営を目指したいと考えている。
---------	---